

食品工場における木質バイオマスボイラー導入

井村屋株式会社（本社工場）

井村屋株式会社

所在地： 三重県津市高茶屋七丁目1番1号

代表者： 代表取締役社長 前山 健

資本金： 100百万円

従業員数： 506名（平成27年3月31日現在）

URL： <http://www.imuraya.co.jp/>

1 事業の概要

井村屋は、「おいしい！の笑顔をつくる」をミッションとし、菓子、食品、デイリーチルド、加温、冷菓、冷凍菓子、冷凍食品の7つの流通事業とフードサービス事業を展開している。中でも小豆の加工技術を活かした商品は長年のベストセラーで、最近では不易流行を活かした新ブランドの立ち上げにも力を入れている。

2 環境への取り組み

当社は、環境基本方針を掲げ、3Rへの取り組みを推進している。また、エコデザインを意識した製品開発、原材料の保全と最適利用、工程副製品の再利用、環境負荷を低減する工程の改善を進めている。地域の環境活動に参画したり、社員の環境への意識向上と保全への取組みのための継続的教育訓練や広報活動も積極的に行っている。

3 制度活用のきっかけ

もともと環境への意識は高かったが、今後、三重県で実施が予定されている「伊勢志摩サミット」や「全国菓子大博覧会」に向けて、地元企業として具体的に地域に貢献していきたいという思いがあった。CO₂削減により創出したクレジットを三重県で主催される地域や事業に関わるイベントなどでカーボン・オフセットすれば、地産池消も実現できると考え、制度への申請を決めた。

4 取組の感想

「エネルギー使用合理化事業者支援補助金」を申請していたため、その時に算出したCO₂に関するデータをJ-クレジットの創出にそのまま使用することができ、スムーズに準備が進められた。2015年7月から準備を開始して申請まで約3カ月程度でできた。

5 制度活用による効果

昨年から環境への啓発教育の一環としてJ-クレジット制度の活用勉強会を社内で開催し、ブランド価値向上なども含めた制度利用の方法について学んだ。その効果もあり、一つの設備の導入によるCO₂の削減だけでなく、商品が提供される過程のサプライチェーン全体をみて、どんな環境貢献ができるのか、クレジットを還元できる余地はないかという、より広い視野で考えることができるようになった。

6 CO₂削減プランCO₂排出削減量見込 2,906tCO₂/年

投資回収年数 3.0年